

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：10月ドイツ I f o 企業景況感

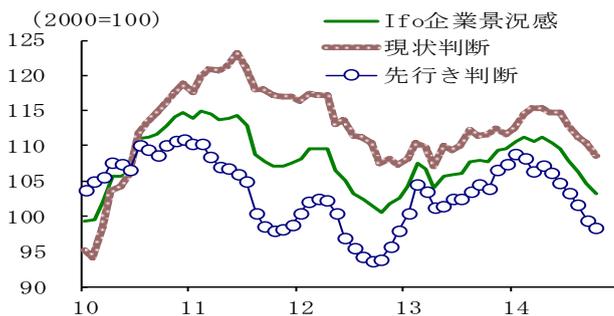
発表日：2014年10月28日(火)

～統計のクセに注意～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

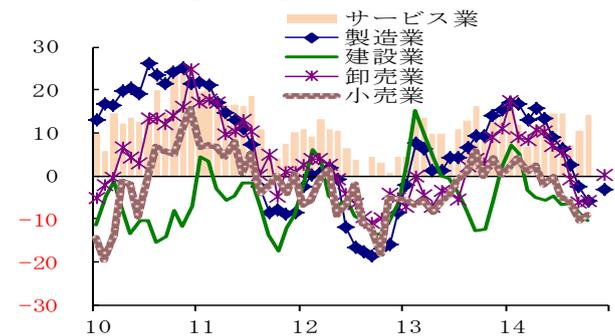
- 27日に発表された10月のドイツの I f o 企業景況感（2005年=100の指数）は前月差▲1.5ポイントと6ヶ月連続で低下し、2012年12月以来の水準に落ち込んだ。内訳は、現状判断（同▲2.0ポイント）、先行き判断（同▲1.0ポイント）が揃って悪化。業種別の先行き判断（ゼロが業況判断の分岐点）は全業種が業況悪化を見込む。製造業（9月：▲2.6→10月：▲5.8）と建設業（▲8.6→▲10.5）の悪化幅が前月から拡大した一方、小売業（▲10.2→▲9.0）と卸売業（▲6.0→▲5.9）がやや持ち直した。別途発表されたサービス業の業況判断は、現状判断（+27.8→+34.0）、先行き判断（+10.5→+14.1）が揃って改善し、高水準を維持している。
- I f o の景況悪化は前月同様に PMI と食い違う。これは I f o の対象業種にサービス業が含まれていないことが一因。別途発表されているサービス業の業況は堅調で、ドイツ企業全体の景況感 I f o が示唆するほど悪化していない。他方、調査票の回答形式の違いによる統計のクセも影響。前月からの業況の変化を尋ねる PMI が景気の限界的な変化に敏感なのに対し、景気の現況と6ヶ月後の景況を平均した I f o は景気のレベル感を反映しがち。10月の製造業 PMI の大幅改善は夏季休暇後の生産活動の再開を反映している可能性があり、出来過ぎの感も否めない。総じてみると、内需部門の堅調持続が景気の下支え役となっているが、製造業を中心に景気の先行き不透明感が一段と高まっている状況。PMI の改善でドイツ景気の減速懸念がやや薄らいだが、失速懸念はやはり拭い去れない。

■ ドイツ：I f o 企業景況感



出所：Ifo

■ ドイツ：業種別の先行きの業況判断



出所：Ifo

■ ドイツ I f o 企業景況感

	2013				2014									
	4Q	1Q	2Q	3Q	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
企業景況感(総合)	108.9	110.8	110.4	106.3	111.2	110.6	111.2	110.3	109.6	107.9	106.3	104.7	103.2	
現状指数	111.8	114.0	114.9	111.4	114.4	115.2	115.3	114.7	114.7	112.8	111.1	110.4	108.4	
先行き指数	106.0	107.8	106.0	101.4	108.2	106.3	107.2	106.1	104.7	103.3	101.6	99.3	98.3	
業況判断	10.3	14.1	13.2	5.3	14.8	13.7	14.7	13.1	11.7	8.5	5.2	2.2	-0.6	
製造業	14.3	18.8	18.2	9.3	19.7	19.0	20.1	18.9	15.5	12.3	9.3	6.2	1.5	
建設業	-2.4	-0.2	-3.7	-5.9	0.5	-3.6	-3.5	-4.0	-3.7	-5.5	-5.3	-7.0	-7.2	
卸売業	9.9	12.9	12.6	3.1	12.5	10.8	14.3	11.2	12.4	9.2	2.6	-2.5	-0.2	
小売業	4.7	7.0	6.8	0.3	8.4	8.4	7.6	4.8	7.9	3.7	-0.7	-2.1	-4.6	

出所：Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。